

※令和8年度第2回高鷲地域協議会については、郡上市情報公開条例第7条第1項第4号につき非公開

令和8年度第3回高鷲地域協議会要録

【日時】令和8年8月18日(火) 19:00～21:30

【場所】高鷲振興事務所2階第2会議室

【出席者】

・委員：養島俊輔、丸田純也、養島治明、仲谷志保、清水聡、山根麻子、上村英二

・事務局：永瀬所長、大口振興課担当

【欠席者】委員：野田育子、麦島洋介、下牧直哉、福手均

【傍聴者】公開制

○開会(19:00)

○あいさつ(会長)

公民館など各団体でも地域協議会同様に今後のまちづくりというのを考えている。ただ、公民館は教育委員会、地域協議会は市民協働課が市の担当部署となっている。同じまちづくりという観点から各々違う組織でも似た考えがあるかもしれない。そのようにまちづくりを地域協議会と同様に考えている団体があることを知っておいてほしい。

○振興事務所長あいさつ(所長)

高鷲地域協議会のみなさまには日頃から地域振興にご協力いただき感謝する。地域協議会の活動が地域の活力や住みやすい暮らしやすい地域づくりの手助けとなっている。

○協議事項

1. たかすふるさと祭りについて

事務局より説明

委員：全員了承

2. ワークショップの振り返り

i 高鷲が将来こうなったらいいと思うこと

・くらし ・そだてる ・はたらく ・あそぶ

事務局より説明

委員：ウェルビーイング的に考えた高鷲のビジョンとも繋げていかないといけないのではないか。仮に作った過去のビジョン画の検証補強が必要ではないか。

委員：今まではトップダウンからの考えが目標だったが、各々が目指す姿のために活動するという共通理解が住民にあれば、行政などの公助に頼るのではなく自助、共助に切り替わって地域の目指す方向性ができる。今まではトップダウン的にビジョンを決めていたが、地域協議会が考える高鷲のビジョンが住民の考える高鷲のビジョンと一緒にしなければならない。

委員：自助、共助の部分であると住民に伝えるのも地域協議会の一つの役割なのかもしれない。移動難民にしても公共交通ではなく自助と共助でできるかもしれない。

委員：自助の部分でいえば学校の送り迎えも家族がやって自分たちで送迎するのが当たり前になっている。自助・共助で成り立っている部分があることまで考えてビジョンを作り、方向性を出さなければならない。

委員：方向性は重要である。幅広く同じ方を向くか、狭く同じ方を向くかでは大きく違う。多様性がある中でも一つの方を向くようにしなければならない。

委員：住民が共通認識のなかで同じ方を向いた上でそれぞれ動くのは結構いい方向性なのかもしれない。

委員：高山の観光ビジョンは「住んで良し訪れて良し」というものを公表している。観光として訪れる人ももちろん、そこに住む地域住民にもわかりやすいビジョンである。高鷲でも観光協会で観光ビジョンを検討しているが、時代が変わる中でビジョンも変わっていてもよいのでは。現状の問題は人口減少と技術の革新で人が減り暮らしが変わっていくこと。今の暮らしを大切にしたいため維持する方と今の暮らしを大切にするために変えなければならないこと、この二つの視点が必要ではないか。ワークショップを通していただ

いた意見では地域に愛着をもった意見が多い。地域に愛着を持って変わらない暮らしを維持していくために変化を選ぶというような表現になるのではないか。

委員：5年10年のビジョンとして掲げるものとして守っていくことと新陳代謝として変えていくことは重要である。

委員：自然や環境、人など高鷲の特徴的な産業や暮らしの方向性は一緒だと考える。具体的に言葉で掲げられるように考えていく必要があるのではないか。

委員：伝統的に続いてきた地域コミュニティを維持し続けれることを検討する時が来ている。「おせっかい」という地域コミュニティも大事だが、それぞれの価値観、多様性で「おせっかい」がいない人もいる。

委員：観光協会のほうでもビジョン策定を予定している。高鷲町は観光と暮らしがセットになっているため、観光面は観光協会暮らし面は地域協議会がビジョンをつくるのか。

委員：繋がっていればよいのではないか。しかし、観光協会は一般の企業が組合員である限られた人で構成された組織である。それに比べ地域協議会は高鷲地域住民全員に対するビジョンであるためもう少し大きなものになるのではないか。

委員：ビジョンは具体的なものではなく、概念的な表現で大きな方向性でよいのでは。

委員：私の考えるビジョンとは判断材料である。このビジョンがあるため、現在はこの判断をするという判断の根拠になるのがビジョンでは。

委員：それが方向性ではないのか。統一の方向性の中で多様性を認めるという表現にしないと意味がない。行動するためには具体的な表現にする必要がある。

委員：概念的な大きなビジョンの下にバリューがある。バリューが具体的な表現になるものであるのではないか。ビジョン自体は範囲が大きいものになるのではないか。

事務局：今回の意見も踏まえ次回以降も継続協議とする。

ii 高鷲地域デマンドバスとほ一かな！たかす広報 LINE の利用者を増やすには

事務局より説明

委員：LINE 広報は、年々登録者が増えてきている。継続してきたおかげで地域住民の中にも定着している。

事務局：郡上市でも公式 LINE の開始が予定している。地域協議会の LINE 広報との関係性を整理する。

委員：高鷲町民に向けた情報は高鷲地域協議会の LINE で配信するのが現実的では。地域の配信ツールは残して活用していく方がよい。その方向性を確立するために次回協議会で相談したい。

事務局：デマンドバスについては、4.5.6 月と利用者が低調であった。7月は観光客による利用があった。引き続き利用促進の PR をしていく。

○連絡事項

事務局：高鷲開拓記念館 10 周年記念イベントとして、8月29日に記念講演会をする。

○次回協議会について

委員：たかすふるさと祭りより前に開催を希望する。

事務局：9月30日に第4回高鷲地域協議会開催を予定する。

○ 閉会(21:00)